



海藻學ヲ始メタ大學生時代  
岡村金太郎君

(明治二十二年九月十七日東京九段坂  
鈴木眞一寫眞撮影)

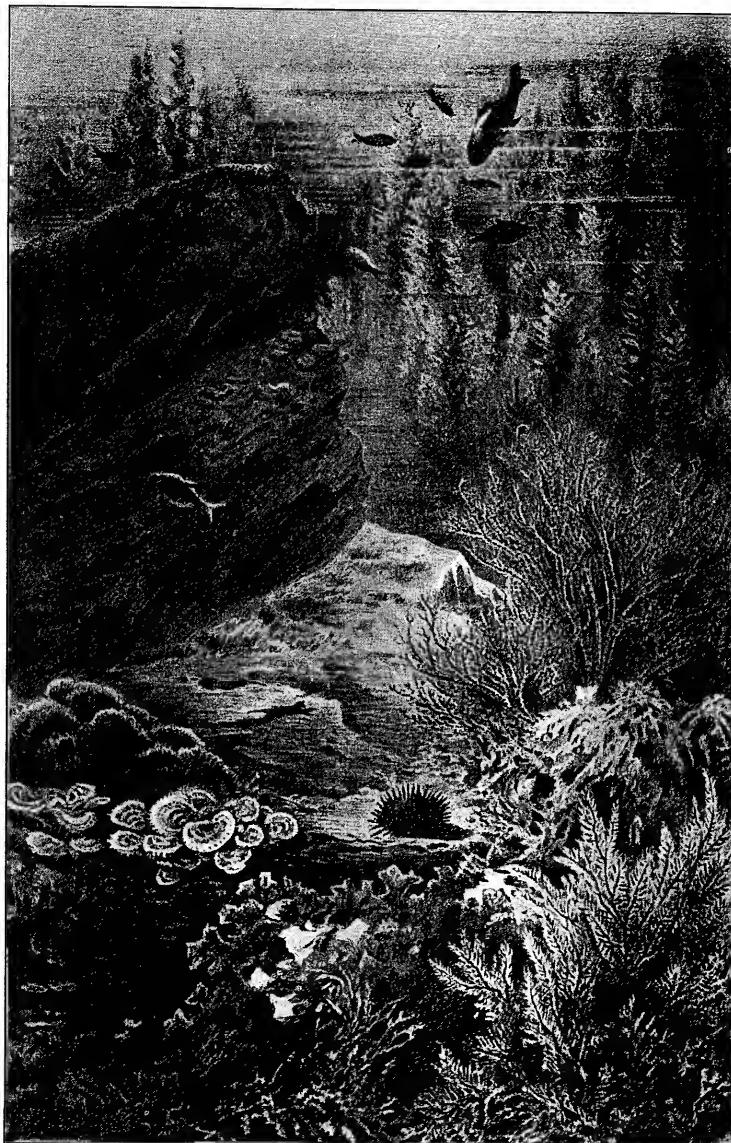
外廻リ瓣片ハ大形デ徑往々 3—4 cm ニ及ブモノガアル丸味アリテ邊緣ハ更ニ波狀ニ屈曲シテ居ル、裏面ハ邊緣ノミ褐色デ他ノ部分ハ多少光澤アル真黃色ヲ呈シ少數ノ毛根デ樹皮ニ着生スル、子器 (Apothecia) ハ亦往々大形ヲナシ徑 1—2 cm ニ至リ圓形ノ輪廓ヲナスベキデアルガ往々梅鉢形ニ裂ケ中央ニ穿孔シテ居ル盤ハ赤褐色、托ノ外面ハ葉體ト同様ニ白色ノ擬盃點ヲ有シテ居ル、此地衣ハ徒ニ其外形ヨリ判斷スルトうめのさごけ屬 (Parmelia) ノヤウニ見エルガ葉狀體ノ中央部邊ヨリ分出スル葉片ノ緣ヲ「ルーペ」デ見ルト黑色ノ疣ガ並列シテ突出シテ居ル、コレハ雄器 (Spermogonium, Pycnidie) デセトラリア屬ノ特徵デアル、及此地衣ノ化學的反應ハ苛性加里溶液ヲ表層ニ點ズルト黃色ヲ呈スルガ髓層ハ呈色シナイ、又漂白粉溶液ニハ何處モ感ジナイ、コレヲ符號デ書ケバ  $K^{+}yellow$ ,  $CaCl_2$  — トナル、又往々此地衣ニ酷似シテ居ルケレドモ葉體ノ中央部ヨリ分出スル瓣片ノ緣ガ細裂シテ居ルモノガアルガコレハ *Catbaria collata* Müll. Arg. f. *microphyllina* A. ZAHLBRUCKNER ト云フモノハダレヒシビレケト新ニ和名ヲ附スルコトリベル

## ○海藻學ヲオヤリナサイ

理學博士 岡村金太郎

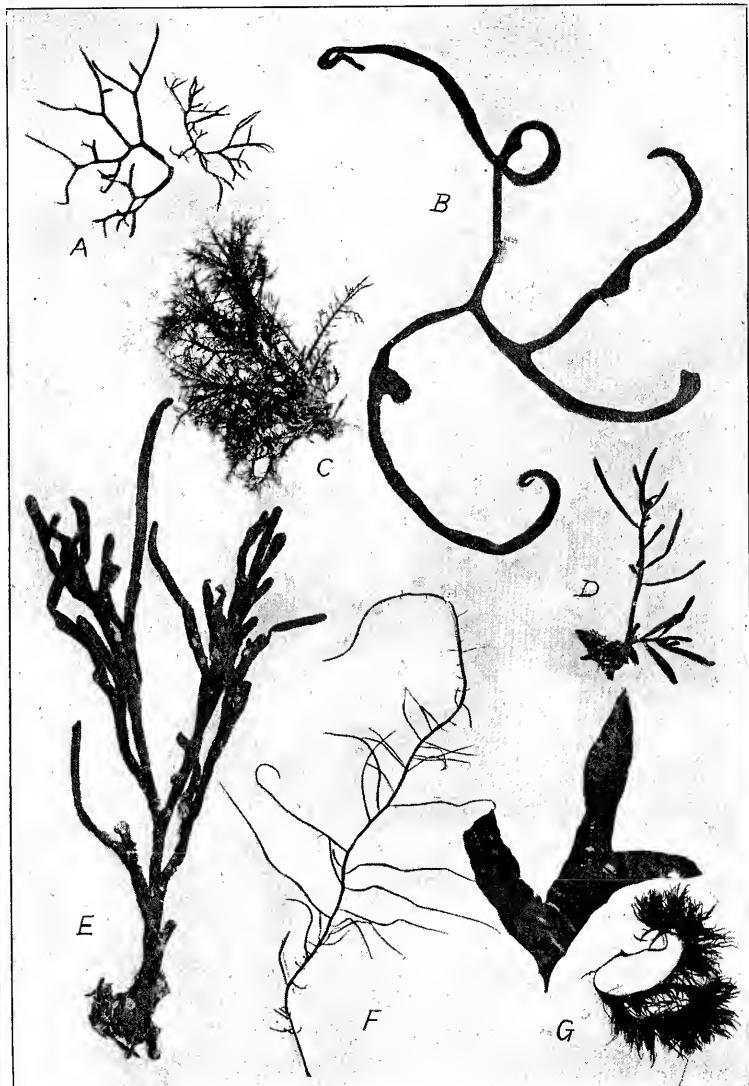
海藻類ノ研究ト云フト兎角世間デハ何カ非常ニ六ヶ敷イモノ、  
ノ、様ニ思ヒ又ハ一寸手ガ出シニクイカノ様ニ言ツテ居ル  
様ダガ別段ソンナニ六ヶ敷イモノデハナイ、尤モ他ノ植物  
類ト違ツテイロイロ澤山ノ參考書ガアル譯デナイカラト云  
フ事ノモ一面倒ニ感ズル點デアル様ダシ又一寸材料ヲ獲ル  
ノガ困難ダト云フ様ニモ思ハレル、全ク材料ハ陸ノモノト

海藻學ヲオヤリナサイ



歐洲地中海ノ支派アドリア海ノ紅藻類繁生ノ狀

(KERNER-HANSEN, Pflanzenleben ミリ)



日本産ノ種タノ海藻

(A) まふのり *Gloiopektis tenax* J. Ag. (B) ながみる *Codium cylindricum* HOLM. (C) てんぐさ *Gelidium Amansii* LMX. (D) ひじき *Turbinaria fusiformis* YENDO. (E) みる *Codium fragile* SUE. (F) むかでのり一種 *Grateloupia* sp. (G) 左、つのまた *Chondrus ocellatus* HOLM. 右、むかでのり一種 *Grateloupia* sp.

違ツテイツデモト云フ譯デハナク潮時ガアルシ波浪ガアルカラ彼ヨリハ少シ面倒ダガ然シ一定ノ場處へ出懸ケ  
テ行ツテ採ルナラ少シ注意スレバ差シテ難澁ナ事モナイ、参考書類ハ分類ノモノ生理ノモノ解剖構造ノモノト  
夫々デアルカラ一概ニハ謂ヒニクイガ生理ノ點ニナルト特ニ海藻ノ生理ト云ツテ一般植物學ノ生理ト違ツテ居  
ルノハ極メテ一部デアルカラ唯一般植物ノ生理ヲ以テ海藻ニ當テハメテ研究シテ行クニ外ナラヌノデ此點ハ海  
外諸國デモ多少ヤツテハ居ルガ未ダドコノ國ガ一番進ンデ居ルト云フ折紙ヲケル事ハ出來ナイ位ノモノデ獨  
逸ヤ獨逸風ノ學問ノ盛ナ處デハ夫々ヤツテハ居ルガ何分海藻トナルト之ヲ活カシテ蓄ヘテ置ク事ガ容易デナイ  
ノニ比シテ淡水ノ藻類ハ此點ニ就テハ容易デアルノデ自然淡水藻ニ材料ヲ索メル所カラ多クハ顯微鏡的ノ綠藻  
類ニ關シタ生理學ガ多ク研究サレテ居ル

構造トナルト大シテ面倒ナモノデハナク大體ガ簡單ナ構造ヲ有ツタモノデアルカラ陸上植物ノ様ニ種々複雜ナ  
モノハナインデ別ニ構造ノミヲ論ジタ書物ト云フ様ナモノハナイガ然シ體ノ構造ハ分類ヲヤル土臺トシテ是非  
ヤラナケレバナラヌノデアル、其處デ一番書物ノ多イノハ分類デ此レハ英米佛獨瑞威濠等夫々ノ國々ニ產スル  
モノヲ調査シタモノガアリ又諸國ノ探險船デ採集シ調査シタモノガ諸處デ出版サレテ居ルカラ夫等ヲ成ベク澤  
山手ニ入レテ研究シナクテハナラヌカラ之レガ一番事面倒デアル、然シソウ言ツテハ如何ナレドモ斯ノ如キハ  
眞正ノ専門ニ研究スルモノ、ナサドルベカラザル點デ一般ノ人ガ大體ノ分類ニ通曉シ様ト云フニハ夫程迄ニ參  
考書ヲ集メナクテモ内地デ遠藤君ノイロイロノ著書ヤ岡村ノ圖譜等今日デハ可ナリ斯道ノ参考書モナイデハナ  
イ夫故自分ガ明治二十二年頃ニ始メタ開闢時代トハ違ツテ百ヤ二百ノ海藻ナラスグ學名ガ知レナイ事ハナイ要  
ハ唯ヤルカラヌカ丈ケノ事デアル  
脩何事ヲヤルニシテモ物ノ名ヲ知ルト云フ事カラ始メナクテハナラヌカラ先ヅ一應採集シテ少シナリトモ種類  
ヲ知了スルコトガ大切デアル夫ニハ手近イ處ニ一定ノ採集場所ヲ定メテ一月一日カラ十二月三十一日迄ノ間出

來ルダケ毎月都合ノヨイ時ニ其場所へ採集ニ出懸ケテ一年中ノ變化ヲ知ルト共ニ一年中ノ海藻ノ種類ヲ知リ其幼時カラ結實夫カラ流失迄ノ経過ヲ知ル事ガ一番近道デアル  
 最後ニ時々誰ガ言フトナクニ聞ク所デアルガ海藻ナドハモウ手ヲ出ス餘地ガナイノデハナイカト云フ様ナ事ヲ聞クガ以テノ外ノ事デアル自分ヤ遠藤君ナドガヤツタニハ違イナイガマア言ハゞ自分ノヤツタニハ遠藤君ガ其中デ懲ニ大キナ木ヲ伐リ藪ヲ拓イテ先ヅドチヘ行クニハドノ道ト大通リノ道路ヲ開イタ位ノモノデ遠藤君ガ其中デ處々ニ少シヅ、小部落ノ村落ヲ作ツタ様ナモノデマダアチラニモコチラニモ未開ノ邊鄙ガ残ツテ居ルカラ千客萬來何十何百何千ノ世帯ガ來テモイクラデモ住ム處ハアルト云フ狀態デアル、事ニヨルト私ニ判ラヌモノナラ新種ダラウナドト言フ人ガアルソウダガ夫ハ私ニ判ラナイモノハ即チ從來調査サレテ居ル何種ニ充テ、ヨイカ判ラナイト云フ事デアツテ夫ガスグ日本デ初メテ見付ケラレテ未ダ世界ニ知ラレテ居ラナイモノデアルト云フ様ナ譯デハナイ誠ニとんでもナイ間違ツタ話デアル  
 夫カラ海岸近クニ棲ンデ居ル人デ別ニ採集ナドセズトモ常ニ海ニ親シングデ居ラレル人ナラ其海ノ春夏秋冬ニ於ケル一海藻ノ胞子カラ發生シ生長シ結實スル迄ノ順序経過ヲ視察スルノモ大ナル斯道ノ貢献デアル、更ニ斯ル場所ニ於テイロイロノ海藻ノ發生状態ヲ弘ク研究シ或ハ發生カラ見タ同一屬ノ各種トカ又ハ關係アル各屬ノ比較トカハナル貢献ヲ此學ノ爲ニ齋スノデアル  
 其様ナ譯デ海藻ノ範圍ハ誠ニ研究ノ餘地ガ多イノデアルカラ自分ハ此方面ニ向フト云フ人ノ爲ニハ敢テ勞ヲ厭ハヌノデアル

## ○伯林植物採集會ノ記（承前）

理學博士 中野治房